

台頭目覚ましい香港大

先日、日本の企業と中国などアジアの人材を結びつける仕事に関わっている方の話を聞く機会があった。その方の話によると、日本の企業の募集に应运ってきた中国や韓国の学生は多く、いずれも大変優秀であるという。日本語を話せることを要件としていない企業が多いそうだが、応募学生の中には流暢な日本語を話す学生も多いたという。就職への熱心さ、勉強への時間の掛け方など、元氣な中国の学生と接していると、日本の学生が見劣りしてしまつ、とも言

重元 伊藤 教授  
大東 教授  
開発 教授  
研究 教授  
合事 教授  
総理 教授

つていた。

日本の学生にとっては、厳しい話である。ただでさえ就職難で苦労しているのに、日本を代表する大手企業が次々に日本国内で外国人の採用を増やしていけば、ますます就職が難しくなるのだ。

これまでは日本語が話せるとい

要な戦力になる。だから、より多くの企業が優秀な人材を求めて海外にまで出かけていくのだ。

中国の大学といえば、北京にある北京大学や清華大学が有名だ。厳しい競争を勝ち残った非常に優秀な人材を多く輩出することで知られている。胡錦濤主席をはじめ、

人材獲得と大学の国際競争

うことが、外国人の学生が日本で就職することの障壁になってきた。しかし、優秀で熱意のある若者であれば、当初はまったく日本語が話せなくても、一年もすれば日常会話にはまったく困らない。

今の中国政府のトップには清華大学の出身者が多い。しかし、その中国の大学ランキングで、いま微妙な変化が出ているという。香港大学に注目が集まっているのだ。

香港大学はもともと国際的にもその存在が知られた優れた大学で、あるが、いまその香港大学が巨額

の資金を使って優秀な学者を世界中から集め、そして潤沢な奨学金で中国国内の優秀な学生を引っ張っているという。優秀な教師と有望な学生を集めれば、卒業生の質もますます高くなっていく。そこで香港大学の卒業生は就職市場で高い評価を受けている。そして、

本が大学が何もしなければ、優秀な日本の学生が香港大学のような所に行くことになるかもしれない。優秀な日本人の学生が積極的に海外を目指すことは結構なことだが、日本の大学も国際競争に耐えなければならない。

そうした噂話(うわさ)が中国にも広がり、より多くの優秀な中国人の学生が香港大学への入学を果たそうとしている。また、企業も香港大学の卒業生を積極的に採用しようとする。香港大学にとっては好循環が生まれているのだ。

さて、こうした動きは私の大学のゼミでも起きている。海外から来た留学生は総じて勉強に真剣に取り組み、ゼミの中の発言にも積極的である。うれしいことに、日本人の学生は彼らに刺激されているようである。優秀でまじめな海外の学生を身近に見ることで、自分の立ち位置を見直す機会が得られるのだ。日本人の学生にも、もっと奮起してもらいたい。

真剣な留学生が刺激に、経済がグローバル化してくれば、人材獲得や大学教育でも、国際競争がますます激しくなる。日

本が大学が何もしなければ、優秀な日本の学生が香港大学のような所に行くことになるかもしれない。優秀な日本人の学生が積極的に海外を目指すことは結構なことだが、日本の大学も国際競争に耐えなければならない。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。